

第17回 八山系砂防総合整備計画フォローアップ検討会 議事要旨

日時:令和8年2月19日(木)

15:00~16:30

場所:OKB ふれあい会館 第2棟 7B 研修室

1 議事

議事1)前回検討会の意見への対応

議事2)計画の進捗状況について

議事3)令和7年度の主な取り組み内容

議事4)令和8年度の砂防事業新規箇所について

2 議事要旨

(1)前回検討会の意見への対応

委員:土砂災害警戒区域看板の設置について、なかなか進まないといった話がある中で、今年度の取り組み内容を通じてどのような変化があったのかを説明してほしい。

事務局:設置箇所の調整を行う際にご協力をお願いすることとなる市町村へ効果や目的を丁寧に説明したことにより、来年度の設置数は大幅に増加する見込みである。

委員:看板を設置することで、土砂災害対策としてどのような効果が期待できるのか。

事務局:集会所や避難所など、多くの住民が集まる場所を中心に設置している。日常的に目に入ることで住民の防災意識向上に資するものと考えている。

委員:要配慮者利用施設における避難訓練について、通常の避難訓練は実施されていると思われるが、土砂災害を想定した訓練となると「どのように実施すればよいのか分からない」ことが大きな要因ではないかと考える。小規模施設も増加していることから、よりきめ細やかな支援や対応をお願いしたい

事務局:訓練方法が分からず実施に踏み切れていない施設に対しても、土砂災害を想定した訓練に取り組んでいただけるよう、具体的かつ実施しやすい方法の検討を進めていく。

委員:要配慮者利用施設の避難確保計画作成率について、計画が作成できていない残りの施設は具体的にどのような施設か。

事務局:民間の高齢者施設や診療所等が多い状況である。

委員:土砂災害を対象とした避難訓練に活用できる交付金について、補助率や上限、活用実績を教えてほしい。

事務局:補助率は1/2で上限はない。これまでも住民を対象とした訓練等で活用されており、要配慮者利用施設を対象とした避難訓練にも活用できることを今年度改めて周知した。

委員：土砂災害警戒区域の看板について、ハザードマップやインターネットのように、現地でなくても確認できる一般的な情報ではなく、現地で見るとこそ意味のある情報を掲示してはどうか。

事務局：いただいたご意見を踏まえ、土砂災害警戒区域看板の内容については、避難の実効性向上に資するよう検討を進める。

(2) 計画の進捗状況について

委員：土砂災害警戒区域看板の設置について、現在の指定区域数の約18,000区域に対して令和10年度までに約1,800基設置するとなっており、指定区域数に対して1割程度となっているがKPIとしては妥当なのか。

事務局：公民館、避難所等の人が多く集まる箇所を優先的に設置しており、このような設置箇所を抽出した結果が現計画のKPIとなっている。

(3) 令和7年度の主な取り組み内容

委員：基礎調査結果を周知する対象者を、地元住民及び土砂災害特別警戒区域内の地権者に変更する考え方については問題ないが、その目的がコスト縮減でよいのか。

事務局：ご指摘のとおりコスト縮減自体が目的ではなく、これにより、基礎調査をこれまで以上に進捗させ、住民の警戒避難体制の整備を促進させることが目的である。いただいたご意見を踏まえ資料を修正する。

委員：市町村の実施する訓練等において、土砂災害警戒情報ポータルの確認方法といった内容が出てくるが、気象庁のキキクルでも同じような情報を提供している。なにが違うのか。

事務局：土砂災害警戒情報ポータルでは、メッシュごとの危険度判定とともに、CLやスネークライン等の具体的な情報も提供している。こういったものを市町村担当者や要配慮者利用施設の施設管理者に活用いただきたいと考えている。

委員：CLの見直しについて、施設整備状況を反映させたところがあるが、具体的にどういうことか。

事務局：過去に土砂災害が発生したメッシュにおいて、対策工事が完了し、土砂災害発生時の降雨を経験しても再度土砂災害が発生しなかった箇所については、土砂災害が発生していないメッシュと同様の考え方でCLを設定している。

委員：関市で実施した要配慮者利用施設の事業者へ向けて実施した避難訓練等に関する講習会の規模はどれほどか。

事務局：土砂災害警戒区域内等にある要配慮者利用施設の事業者を対象に、延べ78施

設の事業者が参加した。

委員：ダイナミックSABOinGIFUの取り組みについて、いつまでの期間を想定しているのか。

事務局：期間限定ではなく、今後も継続して実施していくことを想定している。

委員：砂防ツアーを継続して実施していくことは、予算面、人員面等で現実的に可能なのか。その分の予算や人員を、要配慮者利用施設の避難訓練の促進や、そういったことをアドバイスする専門家の育成等に活用したほうが良いのではないか。

事務局：砂防ツアーに関しては、ご指摘のとおり予算、人員の面で毎年継続していくには苦しい状況。最終的には県主体ではなく、地元の観光協会さんが主体となるようなツアーに組み込んでいただく等継続可能な仕組みを検討していく。

要配慮者利用施設の訓練については、施設の事業者を指導するのはやはり市町村の福祉部局、教育部局になる。そこに必要な助言をする等、うまく連携しながら進めていくことが重要と考えている。

委員：ダイナミックSABOinGIFUの取り組みについて、モデルツアーのアンケート結果の評価の凡例がないためわかりづらい。

事務局：5が最も良い評価である。

委員：ダイナミックSABOinGIFUの取り組みについて、古い砂防施設や意匠性の高い砂防施設を巡るツアーは魅力的で、一定の需要があると思われる。砂防の歴史と価値をPRする企画として有意義であると考えます。

(4) 令和8年度の砂防事業新規箇所について
質疑なし